

箱根組ニュース

第359号 2023年 3月号

編集発行人 戸丸悟

箱根組は自然を大切にします！
各自保険に入って山に登りましょう！

岩岳さん追悼、養老溪谷に10人！ 溪谷を歩き、滝の前で昼食。「ごりやくの湯」も満喫。

2月19日(日)、JR京葉線東京駅発 7時35分の快速電車に、各々東京駅、新木場駅などから乗車。蘇我駅に8時17分着。8時31分発の内房線木更津行きに乗り換える。

五井駅に8時41分着。ここで小湊鉄道単線のディーゼル列車に乗り換える。

8時52分発の上総中野行きに乗車。ホームに着くとちょうど車両を切り離したところで、一両での出発だ。改札では昔ながらの切符を売っているが、今はやりのモバイルチケットもやっていて、スマホでピッとかざして乗り降りできる。車内では、車掌さんがキップの販売もやっていた。

さて、ゴトゴトゴーゴーと音を立てながら左右に揺れて倒れそう？な車両は広々とした田園風景の中を進んでゆく。これだけで十分楽しい旅だ。耳慣れないかわった駅名の駅にいくつも停車してローカル列車の楽しさを味わう。車窓からはだんだん山が見えてきて溪谷の雰囲気を感じられる。

10時2分、養老溪谷駅に到着。今日は低気圧の影響があるらしく。改札を出ると突風が吹いて駅のチラシやパンフレットが駅前に吹き飛ばされた。下車した乗客が拾って駅員に渡す。

駅前に停まっていた栗又行きのバスに乗り込む。途中から一人乗車はしたが、10人で貸し切りのバスは10時15分出発。

昭和の里山のような景色が続いている。少しさびれた温泉街を通過する。右には赤い太鼓橋が二つ連なった観音橋が見える。下見の時に行ったがこれを渡ると山道になり、少し下ると小さなトンネルをくぐる。トンネルを抜けて坂道を登ると開けたところに出世観音がある。景色の良い山の上の観音だ。養老山立国寺というらしい。

10時30分頃、養老溪谷バス停を過ぎた次のバス停で下車。少し戻ると有料駐車場があり立派な公衆トイレがある。身支度を整え、軽くストレッチをする。10時50分、バスの来た方向に戻る



収支	22085 円
繰越収入	
支出	
News/HP 作成費	500 円
当日プリント代	200 円
現在高	21385 円

10時53分、バス通りの栗又橋を渡る。下を流れる川の左側の少し先は栗又の滝だ。

10時58分、右側に秘湯の湯「滝見苑」が現れる。立派なホテルのようだ。帰りに立ち寄る予定の「ごりやくの湯」はこのホテルの経営だそう。左側が栗又の滝バス停。すぐに左側に滝の入り口が出てくる。栗又の滝自然遊歩道入口の看板がある。その下には滝めぐりコースとあり、上総養老の滝（栗又の滝）200m、千代の滝1キロ、万代の滝1,3キロなどと案内がある。バーベキュー禁止の看板もある。

左に回り込むように下ってゆく、割と急なコンクリートの坂道だ。最後は少し急な階段になり溪谷の川べりに到着。左側に進むと目の前に滝が見える。大きな

ように歩きだす。風が強く竹や木々が大きくなびいていく。昼食会場の滝の前は大丈夫かと不安になる。「栗又の滝周辺水難事故注意」の立て看板がある。

岩を緩やかに滑り落ちる上総養老の滝（栗又の滝）に到着。滝壺は広く大きい。

11時3分、滝の前の飛び石を渡る。この辺りで昼食だが、まずは溪谷を沢に沿ってハイキングだ。沢が緩やかに下るのに合わせるようにのんびりと歩いてゆく。岩盤の広い石の上をのんびり滑るように進む川は不思議な感じだ。溪谷の両側はほぼ垂直の岩が切り立っているが、斜めに曲がった地層がはつきりとわかり、地球の不思議さを感じられる。

11時13分、千代の滝。水量が少なく、看板がなければ滝とは思えないくらいだ。11時16分、万代の滝。これはなかなか立派な滝だ。左側少し奥まったところに位置している。滑りやすい岩に気をつけながら少し近くまで行ってみる。ここで休憩もいいだろう。右側の流れは引き続き緩やかで心が穏やかになるようだ。

11時20分、栗又の滝か

3月19日（日）奥多摩・御前山（1,405m）.
レギュラーコース 歩行約4時間半
（上り2時間40分、下り1時間50分）
奥多摩駅からバスで奥多摩湖まで、ダムのでき堤を渡って山道に入ります。御前山山頂から北に境橋バス停に下ります。境橋バス停からバスで奥多摩駅に向かいます。

〇持ち物 昼食、カップ、飲料水、非常食、マスク（予備マスク）、傘、雨具、着替え、タオル、筆記用具、救急薬品、（痛み止めスプレーなど）、健康保険証、ビニール袋、ティッシュペーパー、他

※申し込み締め切りは 3月17日（金）

集合 3月19日（日）JR 中央線東京駅
5:44 発 快速高尾行き（前から3両目）
途中駅発 神田 5:46 御茶ノ水 5:48
四ツ谷 5:53 新宿（12番線）5:59

立川 6:31（青梅線乗り換え）
6:35 青梅行き 青梅 7:06 着 7:07 発
奥多摩 7:46 着
（バス乗り換え）8:00 発 蜂谷行
奥多摩湖 8:15 着

交通費 東京～奥多摩 片道 1,265 円
奥多摩～奥多摩湖 片道 360 円

●お申し込み・お問い合わせ

Tel・Fax/ 03-3521-6898 戸丸

戸丸携帯 090-4541-7066

携帯メール: satorutomaru@gmail.com

メール: tomarusatoru@hotmail.com

箱根組ホームページ

https://tomarusatoru.wixsite.com/hakonegumi



ら500メートルという銘板が遊歩道の真ん中にある。

11時30分、滝から1000m地点を通過。その先に、バリケードがあり、倒木の為通行止めとある。無理をすれば通れないことはないと思われるがここでUターン。来た道に戻る。もう一度上りで滝の緩やかさを堪能する。

栗又の滝前の岩陰の岩場で、風を避けて昼食会場を設営する。岩岳さんを追悼する場所を設けて写真やお酒などを並

べる。

岩岳さんは1月の11日に亡くなったとのことだが、詳細は知らされていないのでよくわからない。写真の前で献杯をして岩岳さんを囲むように昔話をした。首にトイレットペーパーをぶら下げて「ペーパーいらんかね」とか言っていたおどけた姿を思い出した。天ぶらの時は自宅の美味しいタラの芽を持ってきてくれたりしていた。もう少し一緒に過ごしたかった。亡くなるには早すぎた。ご冥福を祈ります。

渓谷の上の方はゴーゴーと強い風が吹いているようだが、滝の前は岩陰に守られてほとんど影響はなかった。

大鍋で油あげと春菊、舞茸の味噌汁を作る。メインシートの上は持ち寄りの美味しい総菜が並ぶ。ビール、日本酒、ウイスキー、梅酒などが並んでいて豪華だ。岩岳さんも良く日本酒を持参してくれたことを思い出した。

1時55分、集合写真を撮り、出発。滝の左横の少し急な階段を上ってゆく。横からそして上から見る滝は趣が違う。

滝の上部に到着し岩の上からも見る事ができた。岩にお風呂のような大きな穴がある。中の石が渦巻いて穴を大きくさせているらしい。

2時20分頃。滝上のバス停着。ここ

で一応解散。バスでお帰りになる方とここでお別れ。

温泉組は駅と反対方向に歩いてゆく。バス通りを10分ほどで「ごりやくの湯」に到着。内湯、露天風呂にサウナまでついて1100円。お湯は肌にまとわりつくようにぬめりがありとても気持ちがいい。内湯で暖まり、露天で風を感じて、サウナで引き締めるといって豪華な温泉三昧を楽しんだ。湯上り後は昼敷きの食堂でビールを楽しむ。

5時過ぎにタクシーを予約。到着したのはワゴンタクシーだった。快適に養老傾向駅に到着。



